京都大学新聞

学生団体
京都大学新聞社
京都市左京区吉田
京都大学構内
(761)2054 直通
(751)2111 (内線2571)
振替・京都3909
(1部50円 1年間2,000円)

2・20教養部代議員大会

4月11日までの長期ストを決定す

国立大授業料値上げへの布石としての、今年度からの入学金・入学検定料の大幅値上げに対し、教養部では一月二十四日からの無期限バリケードストライキ闘争が闘われてきたが、三月三日からの入試を控えて、「入試会場の確保」を口実とする大学当局によるストライキ破壊が手厚される中で、二月二十日、再度の教養部代議員大会が開かれ、四月十一日までの長期ストライキを継続して闘いぬくことが決定された。しかし、私大学費闘争が入試強行を口実として各個撃破され、地域的結合軸の喪失とともに、学費闘争の質的発化の方向性も未確定なまま、京大学費闘争も岐路を余儀なくされている。

入試期の闘争破壊に抗し

教養部長団交もかちとる

一月二十日、午後四時半から、法経二番教室において教養部代議員大会が開催され、五四七名におよぶ代議員の結集をもって成立し、四月十一日（入学式）までの長期バリケードストライキを継続することを決定した。

この日の代議員大会は、一月二十四日から突入していた無期限バリケードストライキのチェックポイントとして予定されていたものであり、それまで闘われてきた学費闘争の中間総括ともいえるものである。

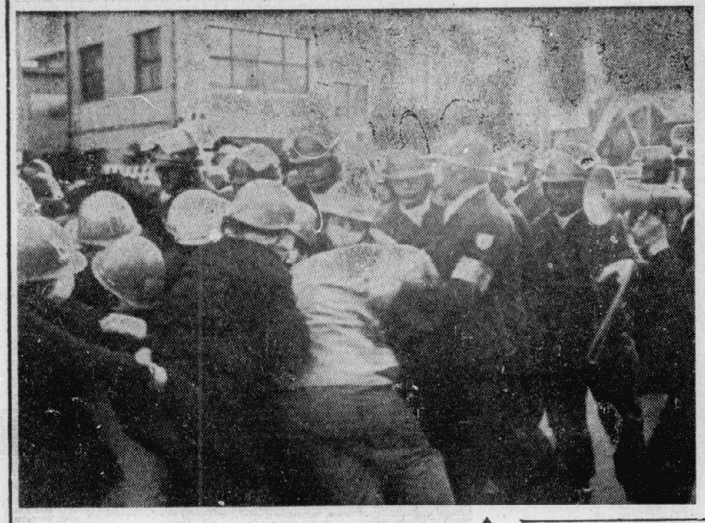
一月二十三日に行われた代議員大会は、教養部共闘会議（C共闘）と教養部学生共闘会議（C学生共闘＝民学同系）との合同で開かれたのだが、この二十日の代議員大会は、後者が脱落したにもかかわらず成立した。初めのうちは、C学生共闘も出席していたのだが、議長団の構成と手チェックポイント時刻をめぐってC共闘と対立し、C共闘の部隊行動によって場外撤去されたまま。

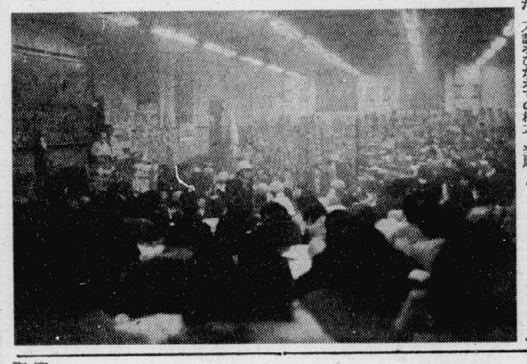
翌日のおさまった四時四十五分、議事が開始され、まず口火を切ってC共闘により、これまでの無期限バリケードストライキの中間総括、及び、それを踏まえた上での議案書・趣旨説明が行なわれた。

今回の学費値上げは労働者人民からの二重・三重の収奪であるのみならず、労働者階級内部の分断および重層化を狙いとする攻撃であり、下層労働者人民を経済的に排除する方向を強化するものである。そして、この攻撃がもろ〇年代における教育・大学の更なる帝国主義的再編、中教審路線の直撃である。

といったことを再確認した後、ストライキ中の帝大に対する実践的総括の闘いとして具体的な総括を行った。

学費値上げ阻止の一連の動きの中で、注目すべきは、二月十九日と対立し、C共闘の部隊行動によって場外撤去されたまま。





体的な存在を押し出しており、また、入試をひかえての権力一局

2・20教養部代議員大会は、五四七名に及ぶ代議員が結集してかちとられ、四月十一日までの長期ストライキを決定した。

一体となったバリケードストライキ拡殺を許さないための布石がなされたのである。

この教養部長団交の他に、ストライキ破壊として登場した2回生法学部の試験を延期させたこと、学費値上げ阻止全関西集会を五〇〇名の結集で勝ち取ったこと、八鹿高校事件の真相報告集会に結集したこと等の報告が行なわれ、議案書が読み上げられた。

続いて、教養部の理学部・文学部・経済学部有志による特別議案書が提出された。

この議案書は、現在ストライキ中の教養部において入学試験が行なわれようとしていることに対して、学生自治を守ろうとする立場から出されたもので「入試を口実にして許すわけにはいかない」から「教養部で入試を例年行ない、本年もその予定である文・理・経の各学部に対して入試を強行しないこと、各学部長は我々との団交に応じることを要求する」といった内容である。

今回の代議員大会に提出された議案書は以上の三つであるが、これを受けて各団体・諸個人からの発言が行なわれた。

八時半、ようやく代議員登録数が定足数を越え、九時すぎに一般討論は打ち切られ、議案書を提出した二団体による総括討論が行なわれた。

採決結果は次の通り。

登録数五四七・出席数五三〇・過半数二六一

	賛成	反対	保留
特別議案書	413	23	40
C共闘	409	23	48
〃	〃	〃	〃

愛媛県当局を追及す

伊方原発設置中止訴え

伊方原発反対八西協議会の川口篤氏と会長ら伊方町、保内町、三崎町の住民約百人は、二月十二日、愛媛県知事白石に伊方原発一号炉の設置問題をめぐって会見を求めたが、県側はこれを拒否し、さらに県庁入口にピケをはり、住民の入庁を阻止した。

十三日午前十時前、先に到着した労学共闘（伊方原発粉砕労学共闘会議）の支援十名が、住民との待合せ場所である伊方の談話室に赴こうとしたところ、正面玄関入口で守衛十名がスクラムを組んで頑み、住民のバス乗車いた十時すぎには守衛の背後に愛媛県課員二百名の阻止体制をとった。

川口会長らは抗議ピケを解き、住民を進ませる求めたが、応対に出た中矢総務課長補佐は不当にも「住民は県庁に入らず、自治会館で会議室で待ってほしい。その上で、商工労働部長が代表十名と会う」と、知事には会わせないことを繰り返した。

この間、ピケをはる守衛、職員に対し、住民・支援から鋭い追及がなされたが、「上司の命令だから」と答えるばかり。

県側の住民無視に業を煮えた住民は、十時半ごろ「県庁は住民に対して開かれていなければならない。われわれが支入れないのは不当だ。自治会館ではなく、県庁へ正面から入ろう」と意志一致。ピケを突破すべくもみ合った。職員の人垣は厚い。数名の守衛がひきずりおろされたが、再度返逆を余儀なくされる。後ろの方で「悪代官ひっこめ」「これが〝レンゲ草の県政かと」声があがる。さらに数回、ピケ突破がくりかえされたが、そのたびに押し戻された。その後、社会党県議らが仲介に立ち、結局住民代表十四名が県庁に入り商工労働部長と会うことになった。

午後三時ごろ、川口会長ら代表十四人は商工労働部長室で、近藤昇吉部長、公害課長補佐らと会見。この間ピケは続けられた。席上、代表は「なぜピケをはって、われわれを締め出すのか」と追及、これに対して「守衛の判断でやったことだ」と最直る発言がなされた。また伊方原発一号炉設置に関しては、「原子炉新設は、安全性の確証されていない現在、認められるべきではない。新規原発の認可を下す三月の電源調整審議会（電調審）に、知事は意見書を提出せず、二号炉設置の不当性を表明せよ」と要望。県側は「原議会の議決で原発推進の立場をとっている。原発の安全性については改良が行われているので問題はない」と以前からの主張を繰り返した。

現在、県は国国電力、伊方町当局と結託して作成した「反全協宛（公害防止協定）」を、住民の合意としてすりかえ、伊方原発二号炉の設置許可を求めて電調審にかけようとしている。今回の県追及はこれに対する牽制・反撃として、今年初めての住民統一行動の下で闘かわれたものである。

京都教文センター

「橋のない川」を糾弾

日共の差別敵対許さず

二月一八日、教育文化センター（教文部）の上映強行策動に対して、部落解放同盟京都府連を中心に、全電通近畿地本、京都市役所反戦、社会主義青年同盟京都地本など、戦闘的部落大衆、労働者、学生約二百名の結集で、実力糾弾闘争が展開された。

この差別映画「橋のない川」（第二部）は、かつて七十年代、「ドブ常化闘」デッチ上げを目論み部落解放運動に対する分裂策動を開始した日共の全国的上映運動の中で、広島の女子高校生吉場さんを死に追いやったものであり、今回の上映は、東京・大阪を始めとする当面の地方選の焦点として、更に反解放同盟の差別キャンペーンを繰り拡げるべく、日共が挑発的に打ち出した再上映運動の一環として上映強行が策動されたのである。

午後五時頃から、教育文化センター前に登場した部隊は、機動隊に守られている日共防衛隊と、反対の狙撃に対峙し、上映糾弾のシュプレヒコールを集中する。ヘルメット部隊、ノンヘル部隊が、スクラムで、教育文化センター前の道路をジグザグデモで制圧しつつ、日共の防衛隊のスクラムに突進する。その度に、日共は、機動隊に強圧を要請し、強圧する権力機動隊に暴発を誘るという醜悪な反階級性を露呈した。

京都教育文化センターに結集した部落大衆、労働者、学生は、機動隊の弾圧をはねのけ日共による部落解放運動への差別敵対に最後まで糾弾闘争を貫徹した

解放同盟の宣伝カーを中心として糾弾集会が行われ、解放同盟、全電通近畿地本、杜青同などの発言が行われ、日共の狭山闘争からの全面追出、悪質な「反暴力」デッチ上げキャンペーン、労働運動に対する分裂策動の反階級性が暴露、糾弾された。更に、東京都内における差別映画「橋のない川」糾弾集会が行われ、解放同盟、全電通近畿地本、杜青同などの発言が行われ、日共の狭山闘争からの全面追出、悪質な「反暴力」デッチ上げキャンペーン、労働運動に対する分裂策動の反階級性が暴露、糾弾された。更に、東京都内における差別映画「橋のない川」糾弾集会が行われ、解放同盟、全電通近畿地本、杜青同などの発言が行われ、日共の狭山闘争からの全面追出、悪質な「反暴力」デッチ上げキャンペーン、労働運動に対する分裂策動の反階級性が暴露、糾弾された。

こうして、会場の周辺は「差別映画「橋のない川」糾弾」集会参加者の集会が行なわれ、「法古拠」として府警機動隊を動員して行政執行を強行、徹底抗戦を闘いぬいた労働者を不当にも逮捕、排除するなどして、テント村を強制撤去した。

この日の代執行に、市当局は職員、ガードマン約百五十名を動員、また機動隊千百名も出動して、テント村の暴力的破壊の模様を見せた。これに対し、第五回金崎闘争実行委員会結集する金崎労働者は約百五十名がテントリンチに対し、労働者は暴抗戦を最後まで貫徹したが、ついにバリケードは破られて、十四人が不当にも逮捕され、他の労働者も公園から排除された。

このテント村は、冬期、特に寒人のない年末年始期に、暖房して凍死、衰弱死する労働者が絶えないことに対して、その救命対策として五年前から無料で行われてきたものであり、職にあぶれた労働者に無料で寝食の場を提供してきていた。昨年までは、雇用の一定程度の回復とともに、一月中頃には自主的に撤去されていたが、不況の今年は、テント村を利用する労働者があとを絶たず、昨年十二月二十八日以来この日まで、十二月二十八日以来この日まで、六十二日間続けられていたものである。このテント村による強制撤去は、四月以降とたりますので御了承をお願いします。14日号、21日号、28日号は、それぞれ本紙創刊五周年記念特集号として発行の予定です。（編集部）

釜ヶ崎

テント村を強制撤去

徹底抗戦闘いぬかれる

大阪西成・釜ヶ崎における日雇労働者の救命対策として維持されてきたテント村に対して、大阪市当局は二月二十六日、「公園の不法占拠」として府警機動隊を動員して行政執行を強行、徹底抗戦を闘いぬいた労働者を不当にも逮捕、排除するなどして、テント村を強制撤去した。

この日の代執行に、市当局は職員、ガードマン約百五十名を動員、また機動隊千百名も出動して、テント村の暴力的破壊の模様を見せた。これに対し、第五回金崎闘争実行委員会結集する金崎労働者は約百五十名がテントリンチに対し、労働者は暴抗戦を最後まで貫徹したが、ついにバリケードは破られて、十四人が不当にも逮捕され、他の労働者も公園から排除された。

このテント村は、冬期、特に寒人のない年末年始期に、暖房して凍死、衰弱死する労働者が絶えないことに対して、その救命対策として五年前から無料で行われてきたものであり、職にあぶれた労働者に無料で寝食の場を提供してきていた。昨年までは、雇用の一定程度の回復とともに、一月中頃には自主的に撤去されていたが、不況の今年は、テント村を利用する労働者があとを絶たず、昨年十二月二十八日以来この日まで、六十二日間続けられていたものである。このテント村による強制撤去は、四月以降とたりますので御了承をお願いします。14日号、21日号、28日号は、それぞれ本紙創刊五周年記念特集号として発行の予定です。（編集部）

お知らせ

本紙の今後の発行予定をお知らせします。

2月24日、3月3日
3月10日、17日号
…学験生特集号
3月24日、31日号
…合格者名簿号
4月7日号、14日号、21日号、28日号は、それぞれ本紙創刊五周年記念特集号として発行の予定です。（編集部）

クラスコンパの御相談承ります
割烹 きよす
寺町通今出川上ル
TEL (231)1243 (231)2269 (222)1138 (222)5510

■紙面紹介■
2月17日号
2面 ▼高橋沢氏にいっそうの教授を
▼アピール 10・29東京都議会入戦士
2月10日号
1面 ▼「反」医学会議への呼びかけ
2面 ▼急使＝演劇戦線第二回ランポー＝コミューン(2) 和田耕治

反弾圧の輪を拡げるために

パンフ、機関紙一覧

「救援ノート」（第三版）¥200
「フレームアップと黙秘」¥150
救援ノート・応用編
「あなたにのびるナチスの手を断て」¥200
○機関紙「救援」（毎月10日発行）¥80
編集・発行／救援連絡センター
連絡先 東京都港区高輪二丁目一八一六 新幹線ビル四F 電話 〇三（五九二）一三〇

「関西救援センター」
発行／関西救援連絡センター
連絡先 大阪市北区浪花町二三五 電話〇六（三七二）〇七二九 振替大阪七三九一五

爆取弾圧の全体を知るために
「反爆取」第一号 ¥200
第二号 ¥220
編集・発行／爆取弾圧と闘う救援会議
（注文は救援連絡センターまで）

土田邸事件の真相を知るために
「暗黒星雲」第一号（逮捕起訴経過）
第二号（崩壊する虚構）
第三号（自白特集 その一）
編集・発行／「警視総監公舎爆破未遂」フレームアップ事件「虚構解体」編集委員会
（救援連絡センターで取扱中）

「高い壁」を定期的に発行
「目石」「土田邸」及び「ピース缶爆弾」フレームアップ事件統一救援会
連絡先 杉並区高円寺三丁目一二一 県代史研究所 電話〇三（三三九）九五七五

「ミット」1号～7号 各¥200
発行／ミットの会
連絡先 横須賀市追浜本町一の四四 早川方

「無名戦士の橋頭堡」
（被告人冒頭陳述集）¥300
続編（71年総括論争集）近日発売
編集／71年黒ヘルゲリラ戦士公判対策委員会
連絡先 渋谷区本町一丁目四一三 田村方 水木誠 電話（三七四）一〇三〇

実録「虚構解体」其之一 ¥1200
編集・発行／「警視総監公舎爆破未遂」フレームアップ事件「虚構解体」編集委員会
（救援連絡センターで取扱中）

「反弾圧の全体を知るために」
「反爆取」第一号 ¥200
第二号 ¥220
編集・発行／爆取弾圧と闘う救援会議
（注文は救援連絡センターまで）

「守る会通信」1～8 各¥50
編集・発行／富士高校放火事件被告加納君を守る会事務局
連絡先 東京都杉並区高円寺南三丁目三十五 電話〇三（三三一）二六八〇 石井方

「支援通信」毎木曜刊 月¥200
発行／沢崎悦子さんの自由をとりもどす会
連絡先 尼崎市東富松字 敷五七一 西尾春方 電話 〇六（四三三）五二二九

連赤公判ニュース 各号¥100
発行／連合赤軍公判対策委員会世話人会
連絡先 東京都新宿区三栄町六 好栄荘三号 振替東京 一九一〇一八

「柳城通信」（毎月15日発行）¥100
発行／伝習館救援会
連絡先 福岡市東区高松四丁目六一三六 電話〇九二（六五一）二三七〇

「モテック通信」
モテック＝模索舎「わいせつ」弾圧を契機として私達の情報とその流通機構をもっともっと拡げていこうとする技術委員会
連絡先 東京都新宿区新宿一丁目一九 中江ビル 模索舎気付 「モテック」通信編集部 電話〇三（三五二）三五五七 振替東京 一七八一六四

「冬の砦」No.1～9 各号¥50
編集・発行「松永君を守る会」
連絡事務局
東京・鎌倉市長谷三丁目一九 伊藤良博方 電話〇四六七（二二）三三〇七
埼玉・浦和市本宮町四一三 松永宅方 電話〇四八五（四二）〇五三六
沖縄・那覇市首里儀保町三丁目三 みどりアパート 松永孝子方

'74九月四日 栄養分析表"押収事件顛末資料
第一集 ¥60
第二集 ¥100
発行／神田 ウニタ書舗
連絡先 東京都千代田区神田神保町一丁目五 電話〇三（二九一）五三三三
東京都新宿区新宿一丁目一九 中江ビル 電話〇三（三五二）三五七七
書肆索舎

高秉沢氏にいっそうの救援を

ファシズム政権の圧政下での韓国における数限りない"見せしめ裁判"によって、今もなお多くの人々が命を奪われ、或いは獄舎につながれている。本紙でも幾度かの報道を行った徐勝、徐俊植の徐兄弟のような例はあとを絶たないが、ここに紹介する高秉沢（コ・ビョンテク）氏の場合もその例にもれず、「スパイ」として二方的に拘引され、苛酷な懲役刑に処せられようとしているのである。

（編集部）

救援のよびかけ

在日韓国人高秉沢氏海外技術者研修協会関西研修センター職員）が時帰郷中、スパイ容疑（KCIA）によりソウルで逮捕されたことは、昨年4月早々に、日本においても報道されました。しかしながら10月11日、高氏が懲役10年・資格停止10年の刑を宣告されたことと、翌日直ちに控訴の手続きをとったことは全く報道されずに終っています。

高氏はいわば無名の一市民にすぎません。またこのような事件は既に目新しい事ではなくなっているのかもしれません。しかし、私達は高氏の友人・知人として、この事件をできるだけ広く多勢の方々に知らせて、ご理解とご協力を願いしたいと考えております。また、既にカンパ・署名などのご協力をいただいた方々にも、あらためて一層のご協力をお願いする次第です。

高秉沢氏は韓国済州道の高校を卒業後、勉学のため単身渡日し、一九六〇年東京大学に入学、六九年三月大学院修士課程（経済学修士）をこえたあと、同年七月財団法人海外技術者研修協会に職員として就職、七二年同協会関西研修センターに転勤し、現在に至っています。

高氏は昨年（七四年）三月二六日、済州道に年老いた両親を見舞うために、夫人と二人の子さんと共に渡韓されました。数日間楽しい日々を過ごし、四月四日ソウルにおもむいたところ突然、同地において突然中央情報部により逮捕されたものです。

中央情報部は四月一八日、高氏を含の国際基督教大学助教授金栄作氏など五名を、「統一戦線形成スパイ網事件」容疑で逮捕したと発表、五月二二日、ソウル地方検察庁は高氏ほか一名を国家保安法違反・反共法違反・スパイ罪の容疑で起訴しました。

第一回公判は七月一九日に開かれ、一〇月一日に無期求刑、一〇月一二日に懲役10年の判決がくだされましたが、その過程の全貌は、裁判では計六回の公判を通じて果たして事実にもとづく充分な審理を尽くしてきたと言い切れるのだろうかという疑問を私達はぬぐい去ることができないし、懲役一〇年資格停止一〇年という刑の重さに驚然となると同時に、これが果たしてどういう経緯で決められたのだろうかを考えて憤然こたらざるを得ません。

結局、この裁判においては、起訴事実を裏付けるような証拠は具体的には何ひとつ出なかったのではないかと思われますし、加えて検事側証人のそうち、私達からみると高氏の無罪をうかがわせるような証言を行なっているものです。

たとえば判決は被告たる高氏の自白のみに基づいて出されたとしかも考えようがありません。しかもその自白がどのような状況の下で行なわれたのであるか、いったん自白したことをどこまで可能であるのか、等々を考えると、私達は今回の判決には多まり沢い疑問を覚えるといわざるを得ません。

高氏は判決のあった翌日（一〇月二日）、直ちに控訴の手続をとりました。控訴審は4年（七五年）二月中旬ごろから二回乃至四回で終ることになると思われます。

私達、高秉沢氏をまもる関西の会は関西在住の高氏の友人・知人など、高氏の裁判の成行を心配する者が結成している会です。これまで多くの人たちの協力の下に、三千名をこえる署名による嘆願書を大統領・判事に提出し、公正な裁判と人道的取扱いを要請してきました。さらに、控訴審に向けて、第二次の署名をおこなってきました。また公判にはできる限り傍聴し、そのわずかな機会に高氏と顔を合わせ、激励してきました。今後一審においても、私達は公判を傍聴するとともに高氏を励まし、また多数の協力による署名による嘆願を再度提出して、なによりもまず裁判が高氏の真の主張に耳を傾けるものになること、その過程での高氏に対して常に人道的な取扱いがなされる様な配慮などを求めていきたいと考えています。以上述べたことと、以下に載せた資料を読み合わせ、さらに多くの人が深い同感をお願いすることもで、カンパ・嘆願ハガキ運動・会への参加などにより、私達の活動にご協力いただきますよう、そしてソウルで行なわれている高氏の裁判に対して、深い関心をお寄せいただきますよう、お願いいたします。

これまでの経過

【第一回公判】は昨年七月一九日、ソウル地方法院二七号法廷で開かれた。この公判では、裁判長の人定尋問の後、検事論旨に移り、検事が早口に起訴状を読み、被告高氏の同意を求めて行くというやり方で進められました。

ここで起訴事実とされているのは①大学学生当時（一九六〇年）在日本留学人留学生同盟に加入②のち労働党に入党③「北」の工作員の指令を受け、民間、留学生韓国からの研修生に対して「北」の政策宣伝を行なった等の事であります。

高氏は白い上衣の肘の上から着

高秉沢氏をまもる関西の会

具体的証拠は何一つ無く

「自白」のみを根拠に「懲役十年」

【第二回公判】は当初、八月二十三日に予定されていましたが、急遽、九月六日に変更になりました。のちに聞くところによりますと、裏期休廷前開廷十後の大幅な人事異動のためであり、これにより高氏の裁判担当裁判官、検事もかわりました。

この公判は裁判長と検事が更新して間もないためか、検事は出廷しない裁判長がつくり起訴状を基に、前回の検事尋問と同じことを尋問するという、変周的な実質上の審理の進展はなにもありませんでした。

「関西の会」の代表は渡韓しましたが、諸々の理由で接見することはできず、第二次集計の署名、大統領宛一、一〇一名、判事宛一、〇九一名分の提出の手配をして帰国しました。

【第三回公判】は九月十七日に開かれました。ここでは、記録状の重点的な内容に沿って非論争点の問答がなされました。が、驚いたことに、七月十日に高氏に対して強導所内の人に「北」の意図をしたというようなことで過剰訴状行なわれており、この公判の冒頭に検事から追起訴の申し立てがありました。

高氏は厳、太両弁護士の尋問の中で、学生時代に留学生同盟の委員長をしたこと、起訴状にいう反人の義務が行なわれました。証人は二名で、いずれも研修協会の研修生として高氏と接した人です。

証人に対して両弁護士と検事から尋問が行なわれましたが、尋問の内容は、①高氏と証人の関係②私的なつきあいもあったかの③高氏の平生の思想状況はどうであったか、又協会の任務、一般的な態度、研修生の評判はどうであったか、というようなことに要約され、これに対し、同証人は、はっきりした態度で、①高氏は研修協会の通訳として自分たちに日本語を教えた②実質的に移って からの事故で入院した時など同居、尽力し、機関誌を編集し、「公正論評」を責任編集した③研修生の待遇改善問題についても熱身で相談に乗ってくれた④私的人間の交際であり、私的なつきあいもなかったので、高氏自身の思想については、はっきりしたことはもちろんしない、自分たちに指示動をしたこともない⑤平生疑わしい思想もなかった、一般研修生の評判も良かった、という要旨の証言をしました。この後、厳の最終弁論、高氏の陳述の再確認がなされ、検事側証人の申請がありました。

第四回の公判には「関西の会」の代表が傍聴し、高氏と顔を合わせることができ、苦手やせているが、健康状況は良いようであり、法廷でもしっかりした態度であったようであったことが確認されました。

【第五公判】は十月一日に開かれました。検事側証人に対する尋問（検事、弁護士、判事の順、求刑、厳、太両弁護士の最終弁論及び弁護人の弁護士の最終弁論、高氏の最終陳述の順に進められました。

検事側証人は七名でこのうち二名は追起訴に対する証人で、同じ場所に収容されている人で、その証言の中でも「北」を一方的に賛歌するようなことはなかったことを明らかにされました。

この他の五名の証言の中では、六五年一月の日比谷公園の集会に、高氏とともに参加した、高氏の自宅に行った時、合唱歌の演作があった日本の経済状態などについて話したことがある、政治に関心はあったらしい、などのことが証言されましたが、高氏から共産主義・社会主義・労働党について話された事実はまったくないことが明らかにされ、起訴事実の核心にふれる証言をできる証人は一人もいなかったようであります。

「判決公判」（第六回公判）は十月十一日に開かれました。起訴以来、約五カ月余になります。

ソウル地裁は高氏に「懲役十年」、資格停止十年」の判決を言い渡しました。高氏は同時に裁判官の「説得」をうけて「懲役一年六ヵ月、執行猶予三年」の判決を受けました。

判決に際して、高氏の容疑のうち、部落解放運動に関しては一部免罪となった部分があり、また、政治的な活動に関しては、「懲役十年」の判決という過酷な裏実に今更のように驚き恐怒せざるを得ません。

【控訴】十月十二日、高氏は同弁護士と相談のうえソウル地方法院に控訴の手続を取りました。第二審開廷は今年二月頃の予定です。

連絡先……

高秉沢氏をまもる関西の会
〒六五八　神戸市東灘区岡本8－9－1
甲南大学経済学部滝沢研究室内
（郵便振替口座　神戸74108）

狭山闘争の歴史的勝利にむけ『石川・五戦士と共に闘う会』に結集せよ！

アピール

南野正人（10・29高裁突入戦士）

昨年十月三十一日、東京高裁寺尾は、無実の部落民石川一雄氏に「無期懲役」という恐怒有罪判決を下し、狭山差別裁判糾弾闘争に対して真向から敵対してくるというブルジョアジーの政治的意志を示した。その前々日、十月二十九日に、他の四人の戦士と共に東京高裁に突入、長官室を占拠して、判決公判実力糾弾の烽火を上げた南雲氏、東京拘置所より本社編集部に送ってきたので、ここに掲載する。

（編集部）

全ての友人諸君！狭山差別裁判糾弾闘争・部落解放闘争を闘う友人諸君！

私は、昨年十月二十九日、目前に迫る10・31判決攻撃に対し、「狭山差別裁判実力糾弾！無実の部落青年石川一雄氏即時実力奪還！日共・革マル解体・絶滅！日本帝国主義ブルジョア政府打倒！プロレタリア・ソヴィエト権力樹立！」をかかげ、東京高裁・司法官僚機構への突入・占拠の"実力糾弾"を闘い抜き、今、東京拘置所に他の四名と、そして、石川一雄氏と共に、断固として獄中闘争を闘っているプロレタリア統一戦線の一戦士です。

昨年十月三十一日、東京高裁寺尾は、十二年に及ぶ獄中闘争を不退転に闘う無実の部落民石川一雄氏に、三百万部落大衆、労働者人民の差別糾弾の闘いに真向から敵対し、「無期懲役」という死刑宣告という反革命差別判決をおしつけた。我々は、この差別判決に満身の怒りをもって糾弾すると共に、実力粉砕！石川奪還！東拘解体！狭山闘争の勝利に向け闘いを打ちきたえていかねばならない。

この判決を弾劾し、全ての論点に於て部落解放闘争を闘い、「第一審を貫く部落差別に基づく『犯人デッチ上げ』を暴露し」「別件逮捕は違法ではない。供述調査には任意性がある。原判決の事実認定は細部に於てはともかく、犯人諸君！」と絶叫しているのである。

まさに、部落差別に一切容認せず、手厳しく偏見に基づき、部落差別に打ち固められた反革命差別裁判である。

このことは、一歩一歩踏まえ、階級化する狭山闘争―部落大衆と労働者人民の闘いに恐怖し、それに対する一切の融和―分断策動を支配階級の危機を拡大するものでしかないと判断し、それを排除し、あくまでも無実の部落民石川一雄氏を「犯人に仕立てあげ、「有罪―獄中闘争」することを通して、狭山闘争―部落解放闘争の反革命的攻撃を狙ったものである。

世界資本主義の危機、ブルジョア階級支配の根底的崩壊の危機に対し、部落解放闘争の高揚、三百万部落大衆への怒りの爆発を恐れ、「無期懲役」の死刑宣告という反革命差別裁判を強行、「石川・雄氏に有罪判決を強行せよ！」と絶叫しているのである。

「公正論評裁判糾弾闘争」の破産を恐れたと言われている。それにもかかわらず、たびたびたるる大衆的怒りの爆発を誘発し、「無期懲役」の死刑宣告という反革命差別裁判を強行、「公正論評裁判糾弾闘争」の破産流を開始した。（石川奪還から我々への手紙は昨日の夜のことであります）我々は、狭山政治決戦を闘い抜いた戦士として、断固として部落解放闘争を闘い抜く。

我々の闘いに対し、今、全国で「石川・五戦士と共に闘う会」が結成されつつあります。同会は、我々と連帯し、石川一雄氏と共に闘っている。戦闘的部落青年は、我々と共に闘い、また10・29以降まさに、狭山闘争の勝利、部落完全解放に向けた不敗の陣型を「石川一雄氏と連帯し、10・29東京高裁突入占拠闘争五戦士と共に闘う会」（略称「石川・五戦士と共に闘う会」）に結集し、築きあげ、共に勝利の日まで闘われ！

我々の第一回公判は、三月一・十五日（火）東京地裁で行なわれる。石川氏の武装蜂起を呼びかけます。

我々の裁判闘争を、狭山差別裁判糾弾の場で堂々とつくし、実力糾弾を思いらせやうらうではないか！

尚、「石川・五戦士の会」の連絡先は、全国は巻頭の所です。

東京都谷区渋谷三丁目二十一

渋谷荘ビル4F　青年文化社気付

石川一雄氏からの手紙を次にかきます。

「遅れもせずながら、謹んで新春の御挨拶を申上げます。誠に御丁寧な賀状をありがとう。同志に恵まれ、また、まこと、部落差別に一切容認せず、手厳しく偏見に基づき、部落差別に打ち固められた反革命差別裁判糾弾闘争を闘い抜き、部落解放闘争を闘ものとして、三百万部落大衆への怒りの爆発を恐れ、抑圧的政治的固定化を通じて国民統合を遂行し、更に、労働者階級自身の団結の解体を図り、「工」―「商」―「学」―「官」―「社外工」、「臨時工」―「予備役」を貫く団結の徹底した分断化をして、近代的身分制度を合理化の推進と共に、一挙に確かかなどとするものである。

かかる支配階級の攻撃に何ら対応しているもはやなく、大衆的であるかを、「戦闘的」であるかを問う、高度の中立、歴史的勝利の前段を迎えるに、我々の裁判闘争（狭山闘争の一環）と狭山闘争を闘ものとして、多くの労働者、部落青年、学生の結集をかちとり、すでに、十二月十五日、第十九次東拘面会に、カンパ糾弾闘争を、そして十二月一・十日に、我々五名の公留理由開示公判闘争を、圧倒的な部隊四百名結集をもって闘われ、一月一日の裁判官忌避の闘争を貫いて、我々石川氏、そして獄中者に対し、熱烈な連帯のアイサツを送ってくれる。

今この友人諸君！労働者、部落青年、学生諸君！

九一九年狭山政治決戦、部落解放闘争の地平を更に拡大発展させ、石川氏、そして獄中者に対し、熱烈な連帯のアイサツを送ってくれる。

今この友人諸君！労働者、部落青年、学生諸君！

「石川・五戦士と共に闘う会」の連絡先は、全国は巻頭の所です。

東京都谷区渋谷三丁目二十一

渋谷荘ビル4F　青年文化社気付

石川一雄氏からの手紙を次にかきます。

「遅れもせずながら、謹んで新春の御挨拶を申上げます。誠に御丁寧な賀状をありがとう。同志に恵まれ、また、まこと、部落差別に一切容認せず、手厳しく偏見に基づき、部落差別に打ち固められた反革命差別裁判糾弾闘争を闘い抜き、部落解放闘争を闘ものとして、三百万部落大衆への怒りの爆発を恐れ、抑圧的政治的固定化を通じて国民統合を遂行し、更に、労働者階級自身の団結の解体を図り、「工」―「商」―「学」―「官」―「社外工」、「臨時工」―「予備役」を貫く団結の徹底した分断化をして、近代的身分制度を合理化の推進と共に、一挙に確かかなどとするものである。

かかる支配階級の攻撃に何ら対応しているもはやなく、大衆的であるかを、「戦闘的」であるかを問う、高度の中立、歴史的勝利の前段を迎えるに、我々の裁判闘争（狭山闘争の一環）と狭山闘争を闘ものとして、多くの労働者、部落青年、学生の結集をかちとり、すでに、十二月十五日、第十九次東拘面会に、カンパ糾弾闘争を、そして十二月一・十日に、我々五名の公留理由開示公判闘争を、圧倒的な部隊四百名結集をもって闘われ、一月一日の裁判官忌避の闘争を貫いて、我々石川氏、そして獄中者に対し、熱烈な連帯のアイサツを送ってくれる。

今この友人諸君！労働者、部落青年、学生諸君！

九一九年狭山政治決戦、部落解放闘争の地平を更に拡大発展させ、石川氏、そして獄中者に対し、熱烈な連帯のアイサツを送ってくれる。

編集　京都大学新聞社
発行　進学研究社

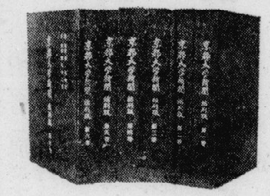
京大志望生必読の書

京大を受ける人のために

過去3ケ年入試問題・解答解説
IR分析による来春入試予想
京大の歴史と学部紹介
先輩から後輩へ
教授随想

「受験地獄」という、かっての我々にとっても、現在の受験生諸君にとっても、いまわしい状況があり、そうした状況の下では、ともすれば大学の実像よりも虚像が先行しがちである。他の受験生向けの雑誌が入試に合格することを第一の重点としてきたならば、我我はまず京都大学を正確に伝えることを目的とした。京大の歴史、学部学科の紹介、京大生の意識等に多くのスペースを使用したのもそのためである。

¥1,000



大正14年～昭和45年
激動の昭和史を伝える
京都大学新聞
縮刷版全六巻

■体裁　各巻　A4判レザークロス張
上製本
平均 900ページ
年表・年度別、細分項目索引（平均30頁）
■頒価　全6巻揃　¥ 35,000
各巻分売　¥ 7,000

■発行所　京都大学新聞縮刷版発行委員会
■発売所　大阪市西区靭1－118 大阪科学技術センター内
科学情報社
電話 06（443）9736番
振替　大阪　31509番